

濱定史と永岡大輔の

●主催＝白鷹町歴史民俗資料館

2025.8.8 [金] から 11.2 [日] まで

暮らしの

期間中のうち
金・土・日曜の
39日間開館

9:00～17:00

●展示趣旨◎電気・ガス・ガソリン、車機械、インターネット…生活に欠かせないエネルギーと設備が使えなくなった
らどう生き抜いていくか…。最近、そう考えさせる事柄が増えてきました。そんな時に役立つのが「昔前の技術であ
り、道具だと思っています。」「私」を原動力にどれだけの作業ができるのか、安らげる空間を得られるのか、それを考える
のはキャンブのように案外楽しいことなのかもしれません。◎この展示では、日本やアジアの伝統的な木造建築や集
落について研究する濱定史（はまさだし、建築家／山形大学准教授）氏と、「これまでにない線を引くにはどうすればいいの
か？」を考え、生活そのものを捉え直す永岡大輔（ながおかだいすけ、美術家／東北芸術工科大学非常勤講師）氏の作品をご紹介
します。お二人の作品を通して、茅の新たな魅力や民具の楽しい使い方、もし家が球体で移動するような、視点を大
きく変化した生活について、みなさんと一緒に考え、楽しんでいきたいと思っています。どちらの作品にも、その土地で
使用されてきた「道具／技術」が根底にあり、私たちがこの土地で生きていく誇りの醸成になることでしょう。◎企
画経緯◎濱定史氏と永岡大輔氏は、令和五年より当館あゆみしるの資料を活用して、「技術の再実装」展（ルーツ・ア
ド・テクニク、山形、二〇三年）、「山形ビエンナーレ二〇二四」（東北芸術工科大学、山形、二〇四年）等のいくつかの展示を行ってしまし
た。そのアート活動を当館でも開催したいと考え今回の企画が実現しました。◎キーワード◎技術の再実装、藁を主
役とする展示、生活の見つめ直し●展示①「技術の再実装」◎建築家の濱定史氏を中心としたプロジェクト「技術の
再実装」。建築材料として扱われなくなった茅の特性を活かした小屋、使われなくなった白鷹町の背負子をういた野
点道具など、昔の「技術／道具」を現在に合った形で「再実装」する試み。●展示②「球体の家」◎美術家の永岡大輔
氏が「これまでにない線を引くにはどうすればいいのか」を考え、生活そのものを捉え直したプロジェクト。茅壁や球
体の家の床から、意識の転換を喚起する。●主な展示物◎裏面を参照。●濱定史◎一九七八年茨城県生まれ。山形
大学工学部建築・デザイン学科准教授。二〇〇二年武蔵野美術大学建築学科卒業。二〇〇四年筑波大学大学院芸術
研究科デザイン専攻修士課程修了。二〇〇五～二〇〇七年里山建築研究所。二〇〇九年筑波大学大学院人間総合
科学研究科芸術学専攻博士課程修了。博士（デザイン学）。二〇一〇～二〇一七年東京理科大学工学部建築学科助教。二
〇一七年山形大学工学部建築・デザイン学科助教。二〇二四年より現職。主な活動に、日本およびアジアにおける伝
統的な建築構法の研究、歴史的建築の保存・再生設計。共著に『建築・スタイル・ワークの系譜』日本建築学会編、昭和堂二
〇一八年『小屋と倉』建築資料研究社（二〇一〇年）など。●主な展覧会◎「濱定史＋永岡大輔＋中崎透「技術の再実装」」やまが
たクリエイティブデザインセンターQ1「山形、二〇一三年」「山形ビエンナーレ」二〇一三年、二〇一四年など。●永岡大輔◎一九七三年山形県生
まれ、横浜在住。Wimbledon School of Art 修士課程修了後、国内外にて個展・グループ展による発表多数。記憶と
身体との関係性を見つめ続けながら、創造の瞬間を捉える実験的なドローイングや、鉛筆の描画を早回しした映像
作品を制作する。制作の痕跡が意図的に残される作品は作者の記憶ばかりではなく、失われた時間の痕跡としての
余韻を空間にもたらし。また、平面や映像作品以外にも、朗読体験を通して人々の記憶をつなげるプロジェクト
「Re-constitution」による公演や、現在では、新しい建築的ドローイングのプロジェクト「球体の家」に取り組む中で、衣
食住をはじめ我々の日常を取り巻く様々な側面を検証し球体型の家の実現を目指している。近年参加した主な展覧
会◎「山形ビエンナーレ二〇一八、二〇二〇、二〇二二、二〇二四年」「Documenta 15」ドッペル、二〇一三年などがある。●展覧会名◎「もうひと
つの暮らしの回路（ルート）」◎会期◎令和七年八月八日[金]～二月二日[日]のうち金・土・日曜の39日間（東北文化の日開
催中の展示）◎会場◎白鷹町歴史民俗資料館 あゆみしる 〒992-0821 山形県西置賜郡白鷹町大字十王2558-1 ※裏面に
地図記載 ◎開館時間◎午前9時～午後5時 ◎観覧料◎常設展示と共通 ◎一般200円 ◎中学生以下無料 ◎団体（10名以
上）100円 ◎主催◎白鷹町歴史民俗資料館 ◎お問い合わせ◎電話 0238-88-7160 ◎電子メール
ayumisiru@so.town.shirataka.yamagata.jp ◎ウェブサイト◎town.shirataka.lg.jp/1352.htm ◎インスタ
グラム◎https://www.instagram.com/ayumisiru/ ◎期間中のイベント◎会期中、出版作家によるワークショップ
などを予定しております。詳しくは当館ウェブサイトもしくは、Instagramの更新情報をご確認ください。

暮らしの

白鷹町歴史民俗資料館 あゆみしる

観覧料＝一般200円、中学生以下無料

※館内常設展示と共通となります。団体（10名以上）は100円に割引

●住所＝〒992-0821 山形県西置賜郡白鷹町大字十王2558-1

●電話＝0238-88-7160

●電子メール＝ayumisiru@so.town.shirataka.yamagata.jp

●ウェブサイト＝town.shirataka.lg.jp/1352.htm



●濱定史+永岡大輔+中崎透「技術の再実装」より
※撮影：たつさき ※撮影：三浦晴子



●独楽あゆみしる所蔵



●刺し子の布（あゆみしる所蔵）



●濱定史+永岡大輔+中崎透「技術の再実装」より
※撮影：たつさき ※撮影：三浦晴子



永岡大輔



●永岡大輔 球体の家より
※撮影：三浦晴子



●濱定史+永岡大輔「山を背負う」より
※撮影：三浦晴子



●魚籠[左上上]、ヤス[下]（あゆみしる所蔵）



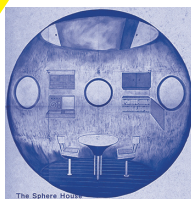
●永岡大輔 球体の家より



●屋根ばさみ（あゆみしる所蔵）



あゆみしる



●永岡大輔 球体の家より



●茅たたき（あゆみしる所蔵）



●濱定史+永岡大輔+中崎透「技術の再実装」より
※撮影：たつさき ※撮影：三浦晴子

か



●将棋あゆみしる所蔵



あゆみしる へのアクセス

と濱定史

